

## 第2回橋本市の自治と協働をはぐくむ委員会 会議録

会 議 名	第2回橋本市の自治と協働をはぐくむ委員会会議
日 時	令和5年8月28日（月）13時30分～16時00分
場 所	橋本市教育文化会館3階第3研修室
出席者 （敬称略）	堀内 秀雄      乾 幸八      前田 陽一郎      平家 利也 田村 亜美      森田 知世子      井西 三知子      玉井 勝代 佐藤 陽子      今田 実      岩澤 晃臣      岸田 昌章 芝 一與      戸島 浩子      中谷 維志      東 美樹 平田 敬二      福澤 稔      向 律子 <div style="text-align: right;">【出席委員：19名】</div>
欠 席 者 （敬称略）	小原 秀紀 <div style="text-align: right;">【欠席委員：1名】</div>
事 務 局	総合政策部長 土井 加奈子 地域振興室長 鈴木 淳司 地域振興室長補佐 前川 朋久 地域振興係主査 上原 慎太郎
次 第	1. 開会 2. 議事 ① グループ分け 資料1 グループメンバー(案) ② すこやか橋本まなびの日 資料2 2022年まなびの日振り返りアンケート 資料3 まなびの日事業計画書(案) 資料4 令和4年度まなびの日実施内容について ③ 自治と協働の職員研修 資料5 令和4年度職員協働研修内容 ④ 自治と協働の実践団体 資料6 自治と協働の実践団体の設立について(案) ⑤ 検証シート 資料7 検証シート(案) 3. その他 4. 閉会

## 1. 開会

- 委員 20 名中 17 名出席により、委員会が成立していることを報告。(委員 2 名は遅れて出席。)
- 傍聴者は 2 名。
- 議事録署名人は前田陽一郎委員、岸田昌章委員。

\*\*\*\*\*

## 2. 議事

### ① グループ分け

#### ○ 事務局説明

- 第 1 回委員会後に実施したグループ分けに関するアンケートの内容を基に、男女比や新委員の割合に配慮し、グループメンバー案を作成した。
- まなびの日などグループを横断する活動については、各グループ 1 名以上で構成されたメンバーで行う。

#### ○ まとめ

メンバー案を確認し、正副グループ長を決定した。

	グループ長	副グループ長
情報共有 G	田村 亜美	森田 知世子
市民参画 G	戸島 浩子	向 律子
協働のまちづくり G	佐藤 陽子	平田 敬二

※ 市民参画 G の副グループ長は後日報告。

### ② すこやか橋本まなびの日

#### ○ 事務局説明

- はぐくむ委員会の一部委員に経費の負担、備品の寄付をしていただいている。
- 例年通り、まなびの日検討チームを設け、内容はチームに一任する。
- 令和 4 年度のブースの様子について、東委員がパワーポイントを用いて説明。
  - パネル展示、クイズ、アンケート、はぐくむの木、はぐくむサポーター登録、ガチャガチャ等を実施した。
  - まなびの日検討チームをつくるが、準備、イベント当日はチームに入っていない方も是非、ご協力いただきたい。

#### ○ 委員意見等

- 経費の一部を委員が負担しているとのことだが、まなびの日実行委員会にもう

- 少し請求することはできないのか。
- 実行委員会に請求できる経費はブース運営に係る経費のうち 5,000 円程度。来場者に配付する景品的な性格の強い物品に対する補助は難しい。
  - 必要があれば委員 1 人 1,000 円を出して、実施するなども検討しては。
  - アンケート結果にはぐくむ条例の認知度があつたが、市場調査等で、内容について知っているとは回答する方は 2 割程度。市の広報は 2 割も読まれていないと言われている。そのことを踏まえて、調査結果の 30%を少ないと考えるのか、徐々に認知されてきていると考えるのか判断すればよい。
- まとめ
- まなびの日検討チームを設け、ブースの出展内容等を一任する。

### ③ 自治と協働の職員研修

- 事務局説明
- 職員研修検討チームを設け、実施内容を検討したい。
  - 検討チームで考えた内容を 11 月前半の第 3 回委員会で諮り、承認を得たうえで 11 月後半に研修を実施する予定としたい。
- 委員意見等
- 今までに実施したアンケート結果等を踏まえ、研修の趣旨やテーマを考える。
  - 研修内容は毎年ステップアップしたい。
- まとめ
- 職員研修検討チームを設け、実施内容の検討を行う。
  - 研修は 11 月後半に実施する。

### ④ 自治と協働の実践団体

- 事務局説明
- 実践団体は市の事業で、はぐくむ委員会とは別団体となる。
  - 委員会へは進捗状況など定期的に報告を行う予定としている。
  - 内容等はこれから検討するため、団体が実際に動き出すのはもう少し先。
  - 組織としては別団体のため、団体設立後の加入は個人の判断とする。
  - 協働実践団体の設立に向けて、協議している内容を東委員から伝える。
  - 委員会の役割は条例の検証と見直しであり、条例第 16 条に明記されている。
  - 実践活動のボリュームが拡大しているため、別団体で実践部分を担う。
  - 委員会と実践団体は対等な関係で、理論と実践を車の両輪のように進めていきたい。
  - 活動は明快で具体的成果がある程度でるもの。
  - 長期的な目標は、コミュニティカフェなどの居場所づくり。

○ 委員意見等

- 第2層協議体や地域運営組織等とのすみ分けは。
- 地域運営組織は地域に沿った運営を行っていくというもので、今回の実践団体とは目的が異なるように感じる。
- 理論と実践を分担することで、委員会の位置づけも分かりやすくなる。
- 具体的な成果が出るものを考えるために、対象や目標を明確にした方が良い。
- 実動団体が既存の団体と協働することで、相乗効果につながれば良い。
- 理論と実践を違う団体が行うことで縦割りになってしまわないか心配。委員会活動を拡大し協働実践を行うことも視野に入れては。
- 団体の規模が大きくなると内部調整に時間がかかる。方向性を絞り動ける人が参画する団体をつくるのが大事。
- 実践団体に活動を始めた人が、理論を学びたいと考えて、はぐくむ委員会の市民委員になるなどの、人の流れが出来たら良いと思う。
- 皆が求めているのは協働による活気。多様性と活気をコンセプトにし、既に活動をされている方と共に、同じ方向を向いて話をすればうまくいくのでは。
- これから協働、助けあいがより一層大切になってくる。これは時間をかけてじっくりとやっていかない事には結果が出ない。
- 全国学力学習状況調査において、あなたは地域のために何か役に立つようなことをしたいと思いますかという質問項目で、橋本は高い結果が出ている。
- 委員自身が色々な方と繋がりながら、実践団体を検討するのも良い。
- 全国に自治基本条例は 400 程度あるが、市民と共に条例の推進やチェックを行っている自治体はとても少ない。そこについては評価したほうが良い。

○ まとめ

- 本件については、この場での合意は出来なかった。
- 第3期正副グループ長で協議を行い、提案を行う。

⑤ 検証シート

○ 事務局説明

- 効果を検証するためのシートを第2期はぐくむ委員会で作成した。
- シート(案)は第2期委員会で作成したシートに事務局が手を加えたもの。
- 項目の調査は委員が行い、必要な資料の収集は事務局で行う。
- 『委員会よりひとこと』は検証項目の調査結果から考えたこと、見通し等をグループごとに記載する。
- 『その他』は特筆すべき事項があれば記載する。
- シートの集約は事務局で行い、委員会で報告する。

\*\*\*\*\*

### 3. その他

#### ① セミナー案内

##### ○ 事務局説明

- いきいき健康課と NPO 法人わかやま NPO センターがそれぞれで検討していたセミナーを地域振興室がつなぐことで、本セミナーを開催することになった。
- セミナーは全 7 回で、内容は地域活動の実例を知る、広報講座など。
- 配布チラシはないが、完成次第情報共有する。

##### ○ 委員意見等

- 開催はいつからか。
  - 9 月 26 日に第 1 回のセミナーが開催される。
- 協働の実践団体など検討事項が多いため、事務局の負担が大きくなるのでは。
  - 手伝う部分はあるが、主催はいきいき健康課と NPO 法人わかやま NPO センターのため、内容や企画などは地域振興室では行っていない。行政と NPO 法人の協働だと思っていただきたい。

#### ② すこやか橋本まなびの日、自治と協働の職員研修検討チームでの協議について

- 途中退席された委員もいるため、SNS で再度参加希望者を募る。

#### ③ 第 3 回はぐくむ委員会の日程調整について

- SNS を用いて調整を行う。

\*\*\*\*\*

### 4. 閉会

以上

【会議録署名欄】

委員長

堀内秀雄

【会議録署名欄】

委員 前田 陽一郎

【会議録署名欄】

委員

岸田 昌章